



1 はじめに

本校は、平成3年、オープンスペースの学校として、また、校舎内側には吹き抜けがあり、開校当初より施設・環境等を生かした各教科等の研究や生活指導に力を注いでいる。現在学級数13（内特別支援学級1）、本年度開校26年目の学校である。

開校以来、学校保健にも経営の重点をおき、長年にわたりむし歯0（処置率を含む）を継続している。

2 「がんばりぬく子」をはぐくむために

本年度学校経営の重点として、学校教育目標の一つである「『がんばりぬく子』をはぐくむ」ことを掲げ、日々の教育実践に取り組んできた。これは、全国学力・学習状況調査の結果や学校評価から「がんばりぬく」ことが本校の課題であるためである。そのため、以下3点を中心に、重点化し、学校教育目標の達成に向け、実践に取り組んだ。

（1）確かな学力の向上を図る

子ども一人ひとりに確かな学力を保障するため、校長が学校経営ビジョンを明示し、教育課程のPDCAサイクルを常に行い、特に、小・中一貫教育の研究指定や国語力向上の研究推進の委嘱を受け、国語科を中心として研究を進めた。その中で、子どもたちがじっくり考えたり、作業したりする授業の重点化を図り、試行錯誤や繰り返し、振り返りを大切にされた授業を展開した。

（2）豊かな人間性や体力・健康を培う

擬似赤ちゃん抱っこ体験、盆栽の植栽、挨拶運動、逆上がり教室など実生活とつながる活動を展開した。授業と体験活動を計画的に関連付けるため、指導内容を整理・統合・深化させ、横断的、関連的、総合的な見地から実践を進めた。



（擬似赤ちゃん抱っこ体験）

（3）社会性や個性を伸ばす

地域をフィールドとし、中学生との交流、ハートフルサッカー教室、未来くる先生などを実際に体験・体感することで、本物に触れ、本物に近づく経験を通し、感動や感激とともに、社会性や個性が伸長できるような場を設定した。

3 おわりに

様々な教育活動を通して「がんばりぬく子」をはぐくんできた。さらに、小・中一貫教育、保育園・幼稚園との連携を継続発展させ、「ゆめをもち、未来を切り拓く、さいたま市の子ども」を育成する基盤として「がんばりぬく子」をはぐくんでいきたい。